

～愛する故郷・岡山をキーワードに、出会い、語り合しましょう～

私たちのまち・岡山を考える

市民のつどい2005

前夜祭

原田芳雄さんの
舞台あいさつ
決定！

9月17日(土) 15時30分～ 18時～ 2回上映

SY 松竹文化(岡山市表町3-11-66)

『父と暮せば』

巨匠黒木和雄監督の戦争レクイエム3部作 最後の作品

参加費

前売:おとな1,000円、こども(小学生～高校生) 700円

当日:おとな1,200円、こども(小学生～高校生) 800円

前夜祭・つどい二日間とおし1,500円(前売のみ)

9月18日(日)

分科会 岡山衛生会館(岡山市古京町1-1-10)

三光荘(岡山市古京町1-7-36)ほか

10時～13時30分

暮らしと地域、明日の岡山を語り合う6つの分科会

全体会 三木記念ホール(岡山衛生会館)14時～15時

記念講演 15時～16時30分

「岡山県九条の会」協賛

「あなたから始まる
～歴史の作り手として～」

講師 澤地 久枝 氏(作家・九条の会呼びかけ人)

参加費 前売:800円、当日:1,000円

前夜祭・つどい二日間とおし1,500円(前売のみ)

澤地久枝さんの
サイン会&書籍販売
を行います



つどい

「私たちのまち・岡山を考える 市民のつどい 2005」実行委員会
連絡先 〒700-8544 岡山市大供一丁目1番1号 岡山市職員労働組合気付
Tel.(086)232-9714 Fax.(086)232-5317 Mailto:sisyoku@icity.or.jp

暮らしと地域、明日の岡山を語り合う6つの分科会

9月18日(日)10:00～県衛生会館・三光荘ほか

分科会名	分科会で語り合いたいこと	共同討論者
<p>第1分科会 教育・子育てを 考える</p> <p>会場：中央公民館 第5ホール</p>	<p>「『食育』のネットワークづくりを考える」(仮称)</p> <p>子どもの育ちにとって大変重要な要素であり、また大きな可能性を秘めている「食」をテーマに、今子どもたちの「食」にどう いう問題があるのかを探るとともに、それに対する取り組み、食 育基本法づくりに象徴されるように近年注目されている「食育」 の現状や今後の可能性などを話し合い、岡山市として力を入れる べき課題を市民の立場から整理するとともに、自分たちの取り組 むべき課題とそのためネットワーク作りを考ます。</p>	<p>秋川陽一 (倉敷市立短期大学教授)</p> <p>林 宏一 (ノートルダム清心女子大学 助教授)</p>
<p>第2分科会 保健・福祉・医 療を考える</p> <p>会場：岡山衛生会館 中ホール</p>	<p>シンポジウム「どうなる？どうする！岡山市の介護保険」</p> <p>介護保険制度の施行から丸5年が経過し、介護保険制度の大き な「見直し」が行われる中で、介護保険「改正」法案が成立しま した。</p> <p>その内容は、新予防給付や地域包括支援センターの創設などの 一方で、軽度者の家事援助など訪問介護の制限、施設入所者から の居住費、食費の徴収など、大きな問題を抱えているといえます。 「改正」法成立を受けて、岡山市の介護保険制度・施策はどう なるのか、どうしていく必要があるのか、利用者やケアマネー ジャー、行政関係者などからの問題提起をもとに、参加者みんな で、よりよい介護保障の実現めざして話し合います。</p>	<p>原田由美子 (梅花女子大学講師)</p>
<p>第3分科会 ゴミ・環境・リ サイクルを考 える</p> <p>会場：中央公民館 視聴覚室</p>	<p>ESD(持続可能な開発のための教育)ってなに？</p> <p>今年「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」がス タートします。岡山市は、ユネスコと国連大学が開いた国際会議 で世界7地域のひとつに認定をされました。温暖化問題などは じめ、地球規模での環境問題が議論され、次世代にどのような環 境を残せるのか問われようとしています。岡山市は「持続可能な 開発のための教育」(ESD)を推進する地域拠点として、世界に 先進的な活動を発信する都市としての活動がどうあるべきなの か、次の世代に生かすために、「今、私たちに何ができるのか？」 を考えます。</p>	<p>池田満之 (岡山ユネスコ協会理事・ 環境カウンセラー)</p>
<p>第4分科会 まちづくり・地 域経済を考 える</p> <p>会場：岡山衛生会館 第3会議室</p>	<p>合併後のまちのくらしとコミュニティ、地域行政の役割を考える</p> <p>～広域化の中でコミュニティ再生と真の都市内分権を展望して～</p> <p>紆余曲折の末岡山市は御津・灘崎と合併しました。地域のコミ ュニティや地域行政という視点でみたとき、合併した地域は旧岡 山市以上にいろいろな良さを持っていると思います。その良さを 発見し、岡山市全体に生かしていくを考えます。</p>	<p>下野克己 (岡山大学教授)</p> <p>品部義博 (岡山大学教授)</p> <p>磯部 作 (日本福祉大学教授)</p>
<p>第5分科会 男女平等を考 える</p> <p>会場：福祉文化会館 2Fホール</p>	<p>トーク&トーク「男のホンネ」</p> <p>「男は人前で泣いてはいけない」「男は弱音を吐かない」「女性(家 庭)を守らなければならない」男はつらいよ、ですね。心の病気・ 自殺・過労死の増加などの背景に、男性を(女性も)とらえてい るこんな意識があるのではないのでしょうか。女性も男性も自分ら しく輝いて生きられる社会の実現を阻んでいる、男性が抱えるさ まざまな問題。“男たちのホンネ”を語り合い、聞き合うことから 考えてみませんか。</p>	<p>(交渉中)</p>
<p>特別分科会 平和を考える</p> <p>会場：三光荘 アトリウム</p>	<p>岡山から戦争と平和を語り継ぐ</p> <p>ひめゆりの次世代プロジェクトの取り組みから学び、岡山から戦 争の実態や惨状を伝え、平和の取り組みや理念を発信する拠点とし ての平和資料館のあり方を考えます。</p>	<p>仲田晃子 (ひめゆり平和祈念資料館 説明員)</p>

全体会・記念講演 「岡山県九条の会」協賛

9月18日(日) 14:00～ 三木記念ホール(岡山衛生会館)

「あなたから始まる～歴史の作り手として～」 講師 澤地 久枝 氏

ドキュメンタリー作家である澤地久枝さんは、太平洋戦争で亡くなった日米の多くの無名の人たちとその家族を取材し、数々の作品を発表してきました。大手術を行い、万全とは言えない体調の中で、それでも「九条の会」の呼びかけ人として、各地の講演などで「憲法9条を守ろう」と澤地さんが訴え続けるのは、取材してきた多くの人たちの涙と悲しみを自らの心に深く刻み込んでいるからでしょう。

「だめだだめだと言われている日本の中で、(9条を守りたいという思いが)地下水のようにちゃんとあるのよと、そこから多くの勇気をもらいました。」「九条の会」発足一年に当たっての澤地さんのコメントです。

ひたむきに、けれども明るく。この記念講演でも澤地さんは平和へのメッセージをあたたかく発してくださるでしょう。

澤地 久枝氏のプロフィール

1930年東京生まれ。ドキュメンタリー作家。幼少期に父の仕事の関係から、中国東北部(満州)へ渡り、そこで敗戦を迎える。18歳の時中央公論社に就職、そのかわり1950年早稲田大学第二文学部国文科に入学。1954年に卒業後、10年ほどの編集者生活ののちに、五味川純平氏の資料助手として『戦争と人間』の執筆を助け、1972年に『妻たちの二・二六事件』(中央公論社)を出版し、本格的な執筆活動に入る。著書に『蒼海よ眠れ ミッドウェー海戦の生と死』(文芸春秋、1987年)、『好太郎と節子 宿縁のふたり』(NHK出版、2005年)、『地図のない旅』(主婦の友社、2005年)ほか多数。「九条の会」呼びかけ人。

前夜祭・映画

9月17日(土) 15時30分～ 18時～ 2回上映 SY松竹文化

黒木和雄監督作品 『父と暮せば』

解説

終戦から3年後の広島。図書館に勤める美津江(宮沢りえ)は、たった一人の家族だった父親を原爆で喪い、生き残った自分に負い目を感じながら暮らしていました。ある日、原爆の資料を探しに図書館を訪れた青年(浅野忠信)と出会い、互いに惹かれ合いますが、美津江は「うちは幸せになってはいけんのじゃ」と自分の心を塞ぎ、青年の誘いを断ろうとします。そんな娘を見かねたのか、その晩から美津江の前に父・竹造(原田芳雄)の幽霊が現れ始めます。“恋の応援団長”を名乗る竹造は、あの手この手で娘の心を開かせようとするが...

黒木和雄監督の“戦争レクイエム三部作”の完結編となる本作は、井上ひさしの同名戯曲を映画化したものです。戦後の広島を舞台に、原爆で死んだ父と遺された娘の交流を描きます。これまでも『TOMORROW/明日』『美しい夏キリシマ』といった作品で、市井の人々と戦争の関わりを描いてきた黒木監督。本作でもそのアプローチは健在で、政治的な視点や大上段なメッセージをいっさい用いず、終始一貫、宮沢りえと原田芳雄が演じる親子の対話を見つめ続けます。記念講演の澤地久枝さんも大絶賛の作品です。

「愛する者たちを一瞬の閃光に奪われ、生き残った娘。
その恋のひらめきからこの世に舞い戻ったおとっんの亡霊。
これはひたむきな魂の再生の物語です。」 黒木和雄

今年も「つどい」で市政と暮らし、そして地方自治を語り合しましょう

市民と市職員が一年を通して共に学びながら準備をしてつくってきた「私たちのまち・岡山を考える 市民のつどい2005」が今年も開催されます。「暮らしと市政全体を市民レベルで語り合う唯一の場」、「すてきな出会いと感動の場」として定着してきたこの「つどい」は、岡山の秋の風物詩ともなっています。

「豊かな公、小さな官」というスローガンの下、公的責任や自治体の役割という議論が尽くされな
いまま、「民間でできるものはすべて民間へ」という政策が強力に推し進められようとしています。

岡山市でも今年2月に策定された「新行財政改革プラン」が推進されており、公的施設への指定管
理者制度の導入や、公立保育園などを筆頭とした教育・福祉等の分野への民営化がより一層進められ
ようとしています。

「金がない」と言われる中でどこに予算を配分していくのか、御津・灘崎といった合併地域の行政
水準をいかに守り発展させていくのか、更に進められようとしている建部町などとの合併をどう考え
どのような岡山市政を求めていくのか、市民参加の議論がますます求められています。

現在焦点となっている市政の様々な課題を学びながら、みんなの思いと願いを持ち寄って語り合
いましょう。

分科会、全体会・記念講演の会場

分科会 岡山衛生会館

岡山市古京町 1-1-10 (086)272-3275

三光荘

古京町 1-7-36 (086)272-2271

他会場

全体会 三木記念ホール（岡山衛生会館）

アクセス

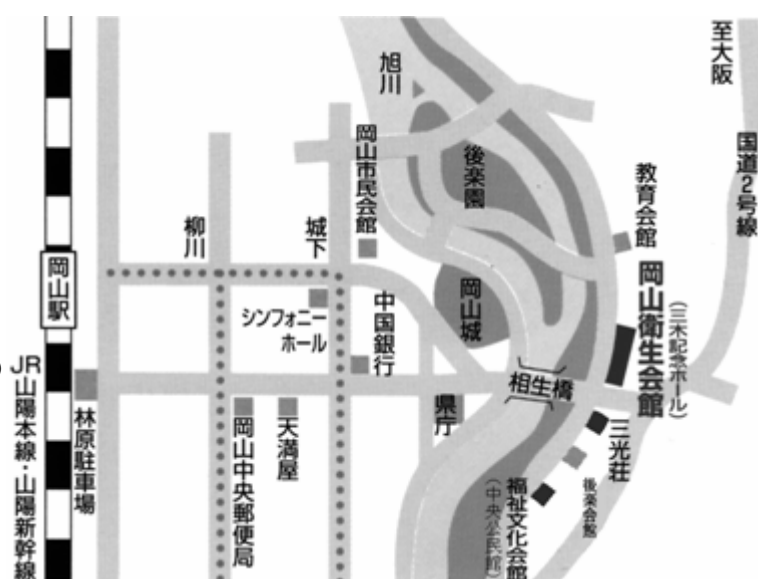
市電利用 岡山電気軌道・東山行（約 12 分）

県庁通り下車 徒歩 7 分

バス利用 岡電バス・岡電高屋行（約 10 分）

県庁前下車 徒歩 2 分

タクシー利用 約 10 分



ご参加にあたってのお願い

参加申込書を「つどい」事務局までお届けください（郵送、ファクシミリ、Eメール可）。お返しチケットと振込用紙をお送りします。

9月18日（日）の昼食については、会場で弁当も販売しますので、ご利用の方は申込書にご記入下さい。

9月18日（日）は、保育室もご用意します [岡山衛生会館5F和室]

必ず事前にお申し込みください（保育料は子ども一人につき300円）。